

本主義とは戦争だ

資
それを阻止するために、労働者階級は資本主義を崩壊させなければならない！

世界を共有する資本主義国家の衝突は必然だったのだ。ウクライナはまだ始まりに過ぎません：

衝突は帝国主義国家間のグローバルなものであり、これまで言われてきたような「民主主義」と「権威主義体制」の間のものではありません！アメリカ、中国、ロシア、イギリス、日本、ドイツ、フランス、イタリアなど、世界中で領土と勢力圏を分割するために、徹底的な武装が行われている。国家間の関係は武力に基づくものであり、抽象的な国際法には基づかない。

戦闘員と傍観者の区別は空々しい、それは戦線のどちら側でも帝国主義戦争を正当化するためのイデオロギー的道具である。

資本主義のすべては、加害者であると同時に被加害者でもある。それらはすべて、パンデミックによって悪化した、商品と資本の膨大な過剰生産によって、どうしようもなく進行している資本主義経済の世界的危機に脅かされている。生き残るために、衰退していく利益を分け合うために、互いに殴り合う覚悟がある。

資本主義社会は、その発展の中で自らが生み出したものに対して脅威を感じている。**共産主義だ！**共産主義は、現代世界その

ものの中で成熟し、生活のあらゆる側面に物質的に迫ってくる妖怪である。資本主義は、その墓掘り人を形成し、拡大した。国際プロレタリアートは、危機がそれを導いている悲惨な条件の下で反乱を起こす運命にある。

資本主義を戦争に駆り立てるものは、特定の政治的イデオロギーでも文化や国の伝統でもない：これらは、ブルジョア政権が紛争を正当化し、資本主義の悪弊を免れようとするための嘘に過ぎない。

1917年10月に共産主義だったロシアは、スターリン主義の反革命とボルシェビキの守旧派の敗北

以来、とりわけ資本主義国家に墮落してしまったのである。

帝国主義戦争を引き起こすのは、大資本の巨大な経済的利益である。これらの利益のために、毎日何十億人ものプロレタリアが搾取され、解雇され、飢えさせられ、事故や病気で死ぬような状況で働かされている。コストを節約し、より多くの利益を上げるために、ブルジョアジーは、環境、産業、インフラ、健康災害を引き起こし、何千人もの犠牲者を出している。

帝国主義戦争は、世界市場を分割するためのブルジョアジー間の対立だけではない：

それは、ブルジョアジー全体が、世界中の労働者を分割し、服従させ、恐怖に陥れるために行う戦争である。

資本主義がその経済的危機に対して持つ唯一の解決策は、生命に反対することである：余剰財だけでなく、生物そのもの、労働力=商品である労働者を何百万人も破壊すること。

ウクライナに入る数週間前、ロシア兵はカザフスタンに送られ、ガス価格の上昇をめぐって起こったプロレタリア蜂起を、現地のブルジョア政権が血祭りに上げるのを助けた。この弾圧は、偽りの共産主義の中国から、独裁的トルコ、西側民主主義国にいたるまで、世界中のすべてのブルジョアの一致した同意を得ていた。

資本のすべての利益とその生存は、国家と軍事機構に集中している。その保護は、不可避免的に戦争に導く。

労働者階級が、まず資本主義を打倒することに成功しないならば、広大で破滅的な紛争によって、世界は、労働者がそれぞれのブルジョアジーの利益と彼らの政治権力の維持のためだけに血を流すことを求められる戦場と化すだろう。

東欧は、帝国主義が衝突している戦線の一つに過ぎない：

米国帝国主義の主要な戦略的敵対者である台湾と中国の周辺では、太平洋から同じように戦争のきらめきが立ち上っている。

ウクライナでの戦争は、以前のユーゴスラビアでの戦争のように、再び平和なヨーロッパという幻想を払拭し、革命的マルクス主義が常に非難してきたことを確認するものである：

資本主義が存在する限り、平和はありえない。資本主義国家間の平和的共存はありえないのだ!

したがって、ウクライナの戦争は、表面的に信じられているように、プーチンの攻撃的な政策によってのみ引き起こされるのではない:

それは、ブルジョア体制によって引き起こされるものであり、それはロシアであり、世界的なものである。

それは、資本主義によって引き起こされ、そのすべてが戦争を孕んでいる。

それを阻止するために、労働者は、民族主義的で公然たるブルジョア政党や日和見主義的な労働者政党のいずれもが、常に「選択」するように言い、他よりも「より温暖化しない」「より反プロレタリアが少ない」「より民主的」戦線の側に立つように指示することに従ってはならない。労働者は、国境を越えて、すべての帝国主義戦線に反対し、何よりもまず、自分自身のブルジョアジーに反対して団結しなければならない。1848年の最初の共産主義者の合言葉は、「すべての国のプロレタリアは団結せよ!」であった。- は、今日でも有効であり、関連性がある。

共産主義者の戦争における合言葉は、第一次世界大戦に対してレーニンや左翼共産主義者が掲げたものである:

帝国主義の戦争を革命に変える!

今日から労働者は、自分たちの志向と態度を自分たちのブルジョアジーのそれと切り離さなければならない。今日から、自分たちの生活と労働条件を守るために、自分たちの国の資本主義に対抗して戦わなければならないのである。

労働者階級とブルジョア階級の間には、利害の一致はない。いわゆる「国の共通利益」は、国家資本主義の利益の擁護を偽装するイデオロギーのマントに過ぎない。

労働者が今日、自分たちのブルジョアジーを支持し、「国の制度」の競争力を高めるために生活や労働条件の面で犠牲を受け入れることは、支配階級の荷馬車に自分たちを縛り付けることを意味し、それは明日、自分たちを抑圧する社会的特権と政治的支配を守るために血を流すように導くだろう。

救いの道は、世界の舞台で自国のブルジョアジーが優勢になることではなく、資本主義に反対する労働者階級の国際的な団結にある。

この社会的戦争には、プロレタリア闘争の武器が必要であり、真の階級的労働組合を再建し、国際共産党の旗のもとに闘う必要があるのだ。

国際共産党

international-communist-
party.org